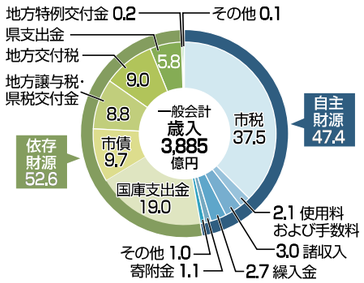
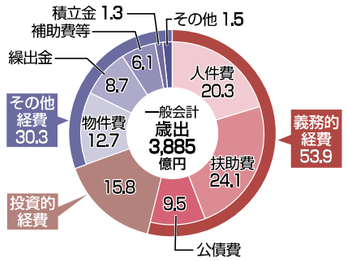
令和7年度 当初予算（案）

静岡市 2025年度予算案

（数字は%）





令和7年 静岡市の主要な取り組み（抜粋）

「プレミアム付き商品券」（しずトク商品券第2弾）を発行!

昨年に引き続き、物価高騰対策として25%のプレミアム分が付いたデジタル商品券を発行します。

- 販売価格：1口6,250円分の商品券を5,000円で販売。（プレミア率25%・1,250円分）
- 利用可能期間：令和7年7月から10月までの4ヶ月間（予定）

「大浜公園」がリニューアルオープンします!（7月予定）

民間事業者の創意工夫を取り入れ、1年中楽しめる大浜公園に生まれ変わります!

子育て支援・教育の充実と健康長寿の推進

①急病児あんしん預かり保育事業 ---------- 4,633万円 拡充
病児・病後児保育室の増設する（新規）
オンライン予約システムを導入する

②給食費負担軽減事業 ---------- 6億1,200万円 継続
食材費の値上がり相当分を公費負担しこれまで通りの栄養バランスと量を保つ

③学校の適正規模化事業 ---------- 40億4,890万円 拡充
蒲原地区小中一貫校、藁科地域小中一貫校、由比地区小中一貫校の建設

④帯状疱疹（ほうしん）ワクチン接種 ---------- 6億2,483万円 拡充
定期接種対象者：65歳の方。以降は5年ごと（70、75、80、85…）が対象
※50歳以上で接種を希望する方は助成上限10,000円（生涯2回まで）

災害対応力の強化

①消防・救急体制の強化 ---------- 33億7,534万円 拡充
消防ヘリコプター（新規）や消防車両等の更新

②森林カーボンクレジット創出促進事業 ---------- 6,000万円 新規
森林を守るため、優れた技術やアイデアをもつ企業や団体を伴走支援する

③上下水道管・施設の地震対策事業 ---------- 71億7,737万円 継続
災害拠点病院等の重要施設を経由する上下水道管を優先的に耐震化を進める

④浸水対策事業 ---------- 34億4,556万円 継続
雨水幹線や雨水渠、雨水貯留施設、河川改修等の整備を推進する

地域経済の活性化

①静岡駅北口地下広場大規模改修 ---------- 2億2,000万円 新規
「しずチカ」のデザインを一新し、まちへの回遊性を高める

②農地集約化促進事業 ---------- 2,300万円 新規
市内に点在する農地を集約化し利用価値の高い一団として有効活用を図る

③デジタル関連企業誘致事業 ---------- 7,687万円 拡充
若者世代の関心が高いデジタル関連企業の立地を促進することで市外流出を抑制する

④新規就農者等育成・支援事業 ---------- 9,252万円 拡充
新規就農者の研修から就農、定着までを伴走支援する

⑤建設発生土・土地利活用推進 ---------- 1億1,800万円 新規
市内で発生する建設発生土を有効利用し、その収入を基金へ積み立てる

静岡駅北口地下のイメージ

文化・スポーツを活かしたまちづくり

①アリーナ整備・東静岡地区まちづくり推進 11億3,020万円 拡充
アリーナを核とした東静岡のまちづくりを一体的に進める

②駿府城天守台野外展示 ---------- 4億6,060万円 拡充
天守台の遺構を野外展示施設に整える・新たにCGによる天守のVRを制作する

③清水港客船誘致 ---------- 1億4,490万円 拡充
令和7年度は100隻の寄港を見込んでおり、乗客の市内周遊を強力に推進する

東静岡地区まちづくりイメージ

社会変革の推進

①移住促進 ---------- 4億727万円 拡充
移住希望者の住宅確保、就業支援を手厚く行い定住を促す

②ワンストップ型デジタル行政サービス推進 1億2,000万円 継続
一度入力した情報を複数の申請手続きに利用できる仕組みを構築する

自由民主党 静岡市議会議員団

市政報告

令和7年2月
2025.02

自由民主党 静岡市議会議員団　〒420-0853 静岡市葵区追手町5-1自民党市議団控室内　電話/FAX054-252-0543

はじめに

市政報告を作成しましたのでご一読いただければ幸いです。
令和7年2月定例会がはじまり、難波市長から施政方針と令和7年度予算案が提案されました。
人口減少、物価高騰による厳しい経済状況や災害対策など、多くの課題に直面し、令和7年度は市政が急速な社会の変化に対応していくことがますます求められます。
難局を乗り越え、笑顔があふれ一人ひとりが輝くことができる安全で安心な静岡市にするべく引き続き全力で取り組んでまいります。

静岡市議会議員　白浜（しらはま） ふみのり

常任委員会と特別委員会

観光交流文化局および経済局ならびに農業委員会の所管に関する事項を取り扱う委員会で、副委員長として各議案を一年間審議してきました。

常任委員会
観光文化経済委員会 副委員長

- 地域経済の活性化と賑わいの創出
- 歴史文化の拠点づくり
- 海洋文化の拠点づくり
- アートとスポーツがあふれるまちの推進
- 農水産業振興に向けた支援　など

特別委員会
デジタル社会推進特別委員会 委員

行政のデジタル化やデジタル技術を活用した市民への情報発信やサービス向上の強化に向けて、市長に提言書を提出。
「災害時総合情報サイト」の早期構築を実現し、災害時の情報共有による市民の安全・安心施策に繋がりました。

現在の静岡市政におけるSDGs施策について

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs×静岡市の取組み

2016年から2030年の15年間を対象期間とするSDGsは、2023年に中間年を迎え、本年から後半戦がスタートとなりました。国連や国のほうでは中間報告がまとめられてますが、特に注目すべきは、国連が履行を加速させる措置を講じなければ、世界はSDGs全体を大幅に達成できないおそれがあると警告している点。そして、日本が持続可能な開発報告書によると、166か国中21位であり、停滞傾向にあることです。

Q1 静岡市のSDGsに対する施策方針とこれまでの総括は？

スタートから7年

質問1

地球沸騰化の時代が到来したと言われるように、例えば環境問題1つにしても切迫した状況にあり、私たち一人一人の行動が求められています。このような地球規模の課題に対し、地球上にいる人全員が自分事として捉え、課題解決に取り組むことを求めているのがSDGsの大事な点であり、積極的に推進していかなければならない理由であると私は考えます。

2016年に国でSDGs推進本部が設置されてから、本市では2017年に全国に先駆けてSDGsの取り組みをスタートさせ、2018年には国連本部でのスピーチ、SDGs未来都市、アジアで唯一のSDGsハブ都市に選定と、まさに世界に輝く静岡の実現に向けた推進力としてSDGsを活用してきました。2024年から2030年の本市が掲げる施策を講じていくためには、これまでの取り組みをしっかりと検証、分析することが重要です。本市は様々な視点からSDGsを積極的に推進されてきた中で、特徴的なものや先進的な取り組みがあれば、その実績や成果とともに中間年である2023年までの本市のSDGs推進の取り組みをどのように総括されているのでしょうか、教えてください。

答弁1

初めに、本市のSDGs推進の取り組みの総括についてですが、本市での地域レベルの取り組みは、世界のためにも、市民のためにもなるものと考えています。

そこで、本市は、市民の皆さんにSDGsを知ってもらうために普及啓発の取り組みを行い、次のステップで行動促進を図るために、企業、団体や若者等によるSDGsの取り組みの拡大などに重点を置いて、段階的に進めてきました。

まず、2018年度から2020年度にかけて普及啓発の取り組みとして、SDGs推進を冠に掲げたTGCしずおかや成人式、シンポジウムなど様々なイベントを重点的に実施しました。その結果、SDGsの市民認知度は、2018年度の28.8%から2020年度には目標の50%を上回る66%まで高まり、普及啓発という当初の目的は十分に達成したと評価しております。

また、次のステップである行動促進を図るため、本市独自の取り組みとして、2019年10月に市内企業、団体等が積極的に取り組むことを宣言する静岡市SDGs宣言事業を開始しました。2019年度末に106件だった宣言数は、2024年1月末には690件となり、自主的に取り組む団体等は着実に増加しています。

さらに、2021年度からは、SDGsのゴール17、パートナーシップに着目し、企業、団体等が連携した汎用性の高い取り組み事例を表彰する静岡市SDGs連携アワードを開始し、社会課題を解決する活動を行う団体に光を当て、検証しております。

こうした取り組みの中で今年度行った大変特徴的な事例についてご紹介します。

それは、静岡市SDGs連携アワードで表彰された茶抄紙の取り組みです。この茶抄紙は、高校生が企画し、地元企業が製造する油を搾った後の廃棄されるお茶の実を原料とした再生紙です。受賞した高校生は、SDGsの第一人者である元国連関係者から若者のエンパワーメントの好事例として高く評価され、国際会議で発表するよう打診を受けております。

さらに、別の高校生グループが企業と連携し、この茶抄紙を用いた本のしおりを企画、販売する事例が生じており、本市としても、このような好循環の取り組みが生まれてくることを下支えしています。

改めて、これまでのSDGsを総括しますと、短期間のうちに市民の意識を高め、行動につなげるという点について一定程度の効果があったと考えています。

今後も市としても、芽生えてきた若者の活動などを下支え、伴走することにより、静岡市だからこそ実現できるSDGsの推進に取り組んでまいります。

副市長（大長義之）

Q2 好事例を活かした情報発信戦略について、市はどのように考えているか？

世界に羽ばたく静岡のSDGs!

質問2

ご答弁いただいた通り、2021年度からは行動の10年として、市民や企業、団体がそれぞれに連携し、様々な課題解決に向けた行動を促すパートナーシップ構築を意識して施策を実行されていると思います。

新しい価値を共に創っていく共創、そしてその共創を下支えし、伴走する市政を基本方針とされていると思いますが、これまでのSDGsの本市施策は、まさにこの共創への取り組みであり、このような共創事例を下支えし、伴走していくことが効果を倍増させるために重要であると考えます。

そこで、世界に発信という視点でお伺いします。

世界に輝く静岡の実現に向け、SDGs推進施策のこれまで以上の積極的な情報発信が必要不可欠であると考えますが、本市としてSDGs推進のための情報発信を今後どのように取り組んでいくのかをお聞かせください。

答弁2

本市は市民の皆さんと共にSDGsを推進するため、特に若者や企業、団体のパートナーシップによる取り組みに着目し、その活動を後押しするため、好事例の情報発信などに力を入れています。

具体的な取り組みを3つ御紹介します。

1つ目は、SDGs連携アワードで表彰式を公開で開催し、各種メディア等に発信するとともに、新たな仲間とつながり、次の展開に進めるよう受賞者同士の情報交換会を開催しています。

2つ目は、TGCしずおかと同時開催のSDGsコレクションです。本年度は、SDGs学園祭と銘打ち、市内外の高校生などが1万2,000人の来場者に向け、自分たちの取り組みを紹介しました。今後も、若者の優れた活動の発表の場を設け、活動を後押ししてまいります。

3つ目は、この3月から情報発信を強化する目的で開設したウェブサイトです。SDGs連携アワードの全ての応募事例90件を紹介するほか、市内企業や若者による先進的な取り組みやイベント情報などを随時募集、掲載していきます。今後もこうした情報発信を通じ、SDGsに取り組む企業、団体、若者の活動を後押ししていきます。

企画局長（松浦高之）

静岡市へ意見要望を出しました！

より良い静岡市の未来ために

1 2023年の中間年を迎え、しっかりとこれまでを総括することは、今後のSDGs推進のためにも非常に重要なことだと思います。**これまでの総括の下、2030年までに向けた目標を設定し、そこからバックキャスティングして、毎年の検証と報告を繰り返しながら計画的に目標達成を実現していくことが必要**です。

公式な中間報告の作成と発信、それを踏まえた今後の中長期計画を明確にして、SDGs推進に取り組んでいただきたいと思います。

2 これまでのSDGs施策によって、本市には自発的に協働し、共創していく土壌が醸成されています。そういった共創を行政も連携して推進していくことが、地方創生のためにも必要不可欠だと考えます。

安心感のある温かい社会の実現を目指して、SDGsという共通目標に向かってパートナーシップを構築し、共創して相乗効果を発揮していくためにも、市として一緒に取り組み、後押しをしていく明確な姿勢を見せていっていただきたいと思います。

3 **未来を担うユースに夢と希望を与え、郷土愛を育んできたSDGs事業の費用対効果は計り知れないものである**と思います。実際に国際会議での発表のオファーも来ているように、全国、世界からも注目されています。

今後は、さらなる事業内容の充実に加え、胸を張って自慢するぐらいの世界に向けた情報発信を要望いたします。

4 本市では、各部局でSDGsを意識した施策を推進してくれています。そういった庁内横断的な視点での情報発信も必要です。

現在、各都市がSDGsのポータルサイトやプラットフォームを構築して、様々な積極的な情報発信に取り組んでいます。

ホームページがリニューアルされたのを契機に、本市でも**SDGsの取り組みが集約されたポータルサイトなどの構築による情報発信**もお願いいたします。

これは、本市のPRだけではなく、SDGsに取り組むユースや企業、団体の支援や励みにもつながるものです。